

平成23年5月24日

## 平成22年度 事業報告書

学校法人 新渡戸文化学園

## 1. 法人の概要

・設置する学校 (平成22年5月1日現在)

(単位：人)

学 校	学科・専攻等	収容 定員	在学 者数	専任教職員数			
				教員	職員	計	
新渡戸文化幼稚園 (共学)		110	91	6	2	6	
新渡戸文化小学校 (共学)		260	248	16		18	
新渡戸文化中学校 (女子)		300	61	4	2	4	
新渡戸文化高等学校 (女子)	全日制 普通科	550	127	15		17	
新渡戸文化短期大学 (共学)	生活学科	食物栄養専攻	160	160	23	6	29
		生活福祉専攻	0	0			
	専攻科	児童生活専攻	100	99	13	2	15
		臨床検査学科	40	28			
事務局 (給食を含む)					16	16	
合 計		1,712	1,019	77	28	105	

・役員および評議員 (平成22年5月1日現在)

役職名	氏 名	説 明
理事長	豊川 圭一	就任日 平成19年4月1日、任期平成22年5月31日
学園長 学務理事	森本 晴生	就任日 平成20年4月1日、任期平成24年3月31日
常務理事	竹越 俊五郎	就任日 平成20年4月1日、任期平成24年3月31日
理 事	8 名	法人の事業に貢献4名、評議員の互選3名、短大学長1名 (理事長、学園長学務理事、常務理事を含む)
監 事	2 名	学外者2名
評 議 員	20 名	教職員から4名、卒業生から2名、法人に関係ある学識経験者9名、 理事の職にある者(評議員の互選3名を除く)5名

## 2. 事業の概要

当該年度の事業項目	事業の目的、概要
幼稚園 ・延長保育の充実 ・プレスクールの充実	・社会ニーズに応えるため、保育を行う日数と時間を拡大し、保育機能の充実を前面に打ち出した。 ・未就園児を対象としたプレスクールの開催日を増やすほか、乳児を含めた子育ての支援の検討を行った。
小学校 ・本校への移転・定員変更 ・アフタースクール	・和田校舎から本校舎へ移転し、定員を1年生2クラス60名として、次年度は1、2年生を2クラス60名として募集した。 ・社会的ニーズに応えるため、アフタースクールの構築に注力し、平成23年度の本格的スタートを目指すべくトライアルを実施した。
中学校 ・定員の変更 ・小中一貫	・収容定員を変更(360人から180名)した。 ・アフタースクール構想に取り組み、小中一貫校の可能性を検討した。

<b>高校</b> ・定員の変更 ・キャリアディベロップメント科目の設置	・収容定員を変更（675人から300人）した。 ・キャリアディベロップメント科目を設置し実務重視の教育を実施した。
<b>短大（共通）</b> ・自己点検評価の継続	・次回の認証評価を見据えた自己点検評価を継続して実施した。
<b>短大（生活学科、専攻科）</b> ・生活福祉専攻の廃止及び定員の変更 ・キャリアディベロップメント支援	・生活福祉専攻の廃止により、2専攻となり、また、児童生活専攻及び専攻科児童生活専攻の入学定員を40名から50名に変更した ・当高校が目指すキャリアディベロップメントへの全面的支援と社会人教育のカリキュラム充実を図った。
<b>短大（臨床検査学科）</b> ・臨床検査研究所の充実 ・外部向け国家試験対策講座	・臨床検査研究所の充実を検討した。 ・学外者向けに、臨床検査技師の国家試験対策講座開設を検討した。
<b>新渡戸・森本研究所</b> ・研究所の移転 ・資料収集の継続	・研究所を1号館に移転させた。 ・歴史資料の収集と整理を継続して行った。
<b>法人</b> ・新3カ年計画 ・学園一貫教育推進会議の充実  ・保育舎完成 ・10号館完成  ・労働日数の統一  ・人事評価制度の準備	・新3カ年計画の最終年となり、収支の黒字化をはかった。 ・学園の将来の検討と構築を目的として平成21年度から開始した、常任理事と各学校長による学園一貫教育推進会議の更なる充実と学園の一体化を促進させた。 ・和田校舎売却により移転してくる幼稚園の保育舎が完成した。 ・小学校の教室、図工室、音楽室と平成23年度から本格的に始動する77カースカールの校舎として10号館が建築した。 ・学園教職員の年間労働日数および時間を統一して、平成23年度から実施することにした。 ・人事評価制度を導入させるための準備を行った。

### 3. 平成22年度理事会等の開催状況

日時	会議
平成22年4月20日	理事会
平成22年5月25日	理事会・評議員会
平成22年7月20日	理事会
平成22年9月21日	理事会・評議員会
平成22年11月9日	理事会
平成22年12月14日	理事会
平成23年2月22日	理事会・評議員会
平成23年3月22日	理事会

### 4. 震災の影響

- 平成23年3月11日の東日本大震災では、特段の影響は出なかった。  
地震の影響でほぼ全ての交通機関がストップし、小学生から短大生まで約60名が学内で宿泊した。

### 5. 財務の概要

- 消費収支の推移

	(単位 百万円)						
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
A. 帰属収入	1,616	1,477	1,471	1,403	1,431	2,769	
B. 基本金組入額	179	0	0	0	66	0	
C. 消費収入(A-B)	1,437	1,477	1,471	1,403	1,365	2,769	
D. 消費支出	1,516	1,599	1,602	1,481	1,424	1,625	
純資産の増減(A-D)	100	-122	-131	-78	7	1,144	
消費収支差額(C-D)	-79	-122	-131	-78	-59	1,144	